

第9号

# 有機健康 つうしん

遠赤青汁通信 (H19.12.1 発行)

食品業界は安全性で揺れています。  
こんな時代だからこそ、有機栽培  
&無添加の青汁で安心を伝えたい！  
遠赤青汁の願いです。

遠赤青汁株式会社

〒791-0398 愛媛県東温市則之内甲2225-1  
TEL フリーダイヤル 0120-148-162  
ホームページ http://www.enseki.com

## えひめ地域ミニ・コンソーシアム 支援事業に選ばれました。

この度、弊社は「えひめ地域ミニ・コンソーシアム研究開発支援事業」の本年度補助対象企業に選ばれました。これは財団法人えひめ産業振興財団が行っている产学研官連携による支援事業です。

研究テーマは、「ケールスプラウトの機能性解明及び高機能食品の研

究開発」です。以前より着目していた「ケールスプラウト」を素材とした新製品の開発を行う中で、愛媛大学においては機能性的評価、安全性の確認を行います。弊社においては、有機ケールの栽培、及び採取技術の確立、ケールスプラウトの安定製造技術の開発を行い、連携を図り新商品の開発を目指します。



愛媛県の物産を集めたMADE IN EHIMEで愛媛県産の良さ、特産としての青汁が安心感を届けると講演させていただきました。

今後も、より一層研究を重ね、食品安全・安心はもとより皆様に喜んでいただける製品作りに努めてまいります。何卒よろしくお願ひ致します。

代表取締役 高岡照海



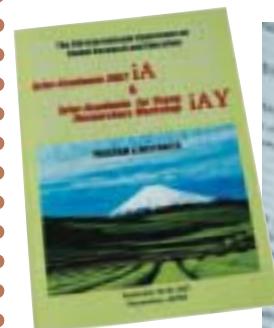
## 社内勉強会を実施しました！

- 食品の製造過程で起こる品質管理などの注意点を、外部の目で指導いただく様、講師をお招きして勉強しました。
- 特に工場での衛生管理において注意しないといけないこと、想定される危機管理、過去の事例に基づいた対応策などをご紹介いただきました。
- 安全性を維持するために確認することがまだたくさんあり、製造メーカーとしての責任の重さを改めて痛感し、信頼を大切にしたいと感じました。



## 国際学会で発表されました！

- 2007年9月23日～30日に浜松で開催された国際学会 The 6th International Conference on Global Research and Education Inter-Academia 2007 で大学との研究成果が発表されました。
- テーマは「短期間の野菜ジュース摂取でのヒトの生理的影響を調べるための測定方法に関する研究」です。
- 静岡大学と共同研究した内容を同大学の沖田氏が発表。このときの野菜ジュースとは遠赤青汁V1のことです。国際学会でも多くの方に関心を寄せていただきました。



さすがは国際学会。  
難しい英語が並んでいます。



# 地域再生に挑む

## 有機の苗を育てます

ポットの中で育つための土は少ししかありません。土がしっかりと栄養を蓄えていないと良い苗も育ってくれません。準備がとても大切です。

冬のこだわりケールは収穫後の四月から土作りを始めます。今年は、地元西条市でケールの苗作りから行いました。

種を撒いたのは八月になります。昨年同様温暖化の影響か、今年の夏も大変暑い毎日でした。

ケールの苗はパレットと呼ばれる容器に撒かれて、ある程度大きくなるまではビニールハウスの中で育ちます。

ビニールハウスを使うには理由があります。温度管理も重要なひとつですが、近隣から飛んでくる他の植物の種だつたり、農薬だつたり、外部の干渉を防ぐことが最大の理由です。

苗を育てるために、一年以上前から土作りも行われます。有機堆肥を土に混ぜて、何度も発酵を繰り返し熟成させます。土の搅拌（かくはん）が十分でないと、苗の育ちも違ってきます。



堆肥を混ぜた土をパレットに敷いていきます。その上から種を植えるための穴をあけて種を落とします。



苗は有機堆肥を混ぜた土で育てられます。左の苗は土の熟成が足りなかったので、小さくて育ちが悪い。一方、右の苗は種を遅く撒いたものですが、しっかりと密集して伸びています。土でこんなに違います。

真夏のビニールハウスの中は温度が五十度を越えます。寒暖計の針もとうに振り切っています。ハウスの中で働く人間の方が参ってしまいそうです。でもケールが水を待っているので汗だくになります。ながらも、毎日休みも無く水をかけていきます。

十度を切っています。寒暖計の針もとうに振り切っています。ハウスの中で働く人間の方が参ってしまいそうです。でもケールが水を待っているので汗だくになります。ながらも、毎日休みも無く水をかけていきます。

農業つて本当に根気が必要ですね。こうした作業を二週間続けていくとようやく芽が出来きます。小さな小さな芽ですが、出てくるとほつとします。育てる喜びは子育てに似ているそうです。「育ても言うこと聞かないところもね。」笑つて話してくれました。

苗が十センチを越える頃には定植（苗の植え替え）を行います。今度は圃場で育つていきます。がんばって大きく元気なケールに育てます。



暑さの中、水を撒いています。

## 遠赤青汁な人へ営業

### お客様の一番近くに

季節も冬になり、体調を崩される方も増えています。お身体には本当に『気をつけください』

全国の百貨店をまわり、お客様のお声をお聞きしながら青汁をお届けしています。一ヶ月間で東京から鹿児島、大阪と日本を大移動することもあります。

ひとつのお店に約一週間。毎回、お会いできるとほっとするのがお客様の笑顔です。「また会いにきたよ」と声をかけていただくと本当に嬉しい。やっぱり来てよかった、がんばろうと移動の疲れも飛んでしまいます。

販売を長く続けていると苦情を受けることもありますし、お役に立てないと無力を感じることもあります。でも支えてくれるのはいつも「出会い」です。

お客様おひとりおひとりのお悩みにお応えできる接客を目指して、今日もどこかで販売を続けています。ぜひ見かけたらお立ち寄りください。



1年間のうち全国の百貨店をまわる日数は、なんと180日を超えます。

今日もどこかの百貨店で青汁をお薦めしています。

見つけたらお気軽にお声をかけてくださいね。

営業部

野崎

# 中国

今、安全性で大きく  
揺れる中国は信頼性  
の高い日本製品を求  
めています。



中国・瀋陽で  
行われた展示会へ  
出展しました。  
(9月20日～23日)

中国の瀋陽（シンヨウ）  
はその昔、奉天（ホウテン）  
と呼ばれ、日本人には馴染  
みのある土地です。今も日  
本人が大勢住んでいます。  
現地の展示会に参加し、  
日本の遠赤青汁をお薦めし  
て参りました。

# 展示会 出展報告

EVENT

国  
内



東京ビッグサイトで  
開催された  
**アグリフード  
EXPO2007**  
に出展しました。  
(8月28日・29日)



中国語のカタログも用意しました。

去年に引き続きアグリフードEXPOに出展しました。「食と農をつなぐ」をキヤッチフレーズに、国産農産物や畜産物、その加工品を紹介する展示商談会です。

今年に入ってから、食品の偽装問題や、一部外国産食品の安全性の問題など、食の信頼性にかかる事件が続きました。そういう食への不安から、国産の食品、有機JASの食品への関心が高くなっているようです。

遠赤青汁は「愛媛県産・有機栽培・無添加」のケールの青汁をお客様に味わっていたとき、安心・安全を力強くアピール。多くのお客様に好評をいただきました。

四国八十八箇所・六十六番札所  
**雲辺寺** (徳島県三好市)



愛媛県から香川へ入る最初の札所が雲辺寺です。

この寺のある旧池田町（三好市）一帯は徳島県と香川県の県境に位置し、愛媛や高知への街道の交差点であることから「四国のへそ」と呼ばれて重要視されてきました。戦国時代には土佐の大名長宗我部元親がこの寺の境内から瀬戸内の平野を見おろして、四国統一の構想を練ったと伝えられています。

ここは札所の中でも最も標高が高く、冬場に凍結するような山越えの道を登っていきます。最近はロープウェイも開通し、安全に参拝できるようになっています。参道では個性豊かな五百羅漢像（ごひゃくらかん）が出迎えてくれます。



ロープウェイで雲のほとりへ。

五百羅漢がお出迎え。



有機圃場の認定証▶



▲土作り▶



▲生産者さん

## 広がる有機圃場

平成19年10月現在、弊社の契約管理を行っている愛媛県内の有機圃場は、7万7500平方メートルに広がりました。およそ東京ドーム、2個弱の広さです。

有機農産物とは、化学的に合成された肥料及び、農薬の使用を避けることを基本として播種または、植え付け2年以上経過し、堆肥等による土作りを行った圃場によって生産された農産物です。

農林水産省の登録認定機関で生産圃場の認定は行われます。弊社は主に地元にあるNPO法人愛媛県有機農業研究会で認定を受けています。

認定機関は年に3回(6月、10月、2月)認定申請時期があり、それぞれの期間に該当する新しく整備した圃場を申請し、認定を受けています。

申請書を提出するとまず書類審査。次に実地検査を受けます。実地調査では、どのような資材を使用しているか、どのような機械器具を使って作業しているか、管理はどのようにされているか検査員が現地へ赴き細かく調査します。

各生産者では生産工程管理記録(栽培履歴)を作成し、日々の作業状況を記録。この圃場ではいつからケールを栽培し、いつ収穫したなど記録しています。このような生産に基づく資料を提示し、適合しているかを検査され、ようやく認定されるのです。

現在も放置された農場の受け入れを進めており、これから開墾、土地作りに取り組む圃場があります。有機認定には、整備する期間も方法も大切です。それだけ農薬が使われた土地を自然な土に戻すためには長い時間が必要なのだと改めて感じます。

私は自社圃場の整備、管理に携わっています。残留農薬や不適切な生産管理によって海外からの安価な食品が問題視され、国内農業の有機栽培への取り組みが広がっています。昨年12月に成立した「有機農業推進法」を受け、各自治体での有機農業への取り組みも始まったところです。

今後も皆様に安心・安全な商品をお届けするために、栽培の現場から気をつけていきたいと思います。

工場 近藤



### お客様の声から

青汁を毎日の健康維持に！



これで少しあは野菜不足が解消できたかな？プラス青汁の愛情弁当はいかがですか？

愛媛県 森田様

毎日、高校生の娘にお弁当を作っています。朝は時間がなくて手抜きしたいのですが、どんなに大変でも冷凍食品だけは使わないと決めています。私のお弁当が大好きだと言ってくれる娘のために、忙しくてもこだわりたいですね。

野菜をたくさん食べさせようと思うのですが、女の子らしく彩りも考えていくと、煮物ばかり詰める訳にもいきません。かわいいお弁当でバランスよく栄養を摂ることは難しいです。

私の苦労を見て娘はチャック付きの袋に“遠赤青汁V1”を入れて、お弁当と一緒に持っていくようになりました。毎日15粒。お弁当の後に飲んでいます。最初は友達もびっくりしたようですが、今では弁当に青汁！は定着しているそうです。（笑）

おたより広場にメッセージをお寄せください!!

〒791-0311 愛媛県東温市則之内甲2225番地1  
遠赤青汁株式会社

有機健康つうしんおたより広場 係あて

※お寄せいただいたお便り等は、その他の目的で使用することはありません。

mail:aojiru@enseki.com

お便り大募集!!

皆様からのお便りを募集しています。青汁商品に関するご意見、ご感想、ご要望など。また日々の出来事や感動した事などをお寄せください。

イラストや写真も大歓迎です。

採用させていただいた方には粗品を進呈させていただきます。